

# 謎の仏像

## 宮下良明

(会員・佐伯市古江区)

史談一六六号『この仏像に尋ねたい』は中林幸夫氏の労作によって、樫野区慈濟院の本尊阿弥陀如来、脇侍勢至菩薩、観音菩薩などの古い仏達に、また新しい進展が見られるようになってきた。それは

本尊阿弥陀仏、正暦元年寅一月仏日

恵心僧都作と書かれた棟札である。

そこで拙文の前に先ず中林氏にお礼を申し上げたい。氏は史談一四五号(昭和六十二年発行)『水ノ子灯台と豊後水道』より一六六号まで、実に二十一回に及び貴重な論文を私達に提供してくれました。

今回退職により佐伯市を去って故郷香川県の方へ帰られたとの由、お会い出来ず残念ですが紙面を借りてあらためてお礼申し上げます。いつまでも元気で御健勝を祈つてやみません。

今も生き続ける古仏達

史談一六五号で私は永福庵と書いた。これは佐伯市史の中で番匠測と樫野の項目に、永福庵という名が出ているのを祖述したもので正しくは永福山慈濟院と言ひ、古くは安養院と呼んでいた。(後述)

しかし、本尊阿弥陀仏の製作が正暦元年の(九九〇)の年号と共に、写真入りで一六六号に掲載されているから、千年の昔恵心僧都という仏僧によって開眼されたものであろう。今更ながらその古さに驚く次第である。ただ、真偽の程は正式の調査を待たねばならないが、一見神秘的で慈悲を湛えた表情等は、素人目にも古い時代の作であろうことは感じられる。

この阿弥陀仏の製作法は、平安時代後期(藤原時代ともいう)に出現した仏師定朝が、これまでの製像法(いもぎ)造りより新たに寄木造りを編み出して完成し、多くの仏像を造ったという。樫野の古仏もこの寄木造りの手法である。

### 御領分中寺社記

(土屋亦兵衛編纂)

毛利藩家中土屋亦兵衛が領内の寺と末庵、社殿とその神職及び所在地等を、寛政六年頃記録して八十数頁にまとめた至つて貴重な資料である。この資料は故羽柴弘氏

が一部写複したものを引用、以下寺社記の永福山関係分を抜粋して、本尊阿弥陀三尊仏の出自を研究して見たい。



(一) 永福山安養院

以前の庵名は永福山安養院と呼んでいたと思う。寺社

記でそれがうかがえる。現在は臨濟宗妙心寺派に属し永福山慈濟院と呼ばれている。



これは檉野区の大半が弥生町江良にある臨濟宗洞明寺の檀家によるもので、同寺は現在妙心寺末寺となっている。

(二) 潮谷寺末庵

寺社記を見て頂けばお分かりのことと思うが、一番目が観音堂上岡村八戸養谷庵、二番目が地藏堂同村檉野、

|        |          |
|--------|----------|
| 一 観音堂  | 上岡村八戸    |
| 一 地藏堂  | 同村檉野     |
| 一 門    | 古、江浦     |
| 一 阿弥陀堂 | 浅海草      |
| 一 地藏堂  | 又浦       |
| 一 観音堂  | 仲松浦      |
| 一 門    | 西三ヶ所、永福山 |
| 一 観音堂  | 日ヶ浦      |
| 一 阿弥陀堂 | 西三ヶ所、永福山 |
| 一 門    | 古、檉野     |
| 一 観音堂  | 福袋庵      |
| 一 善法院  | 日向庵      |
| 一 阿弥陀堂 | 代法浦      |
| 一 観音堂  | 辰谷       |
| 一 阿弥陀堂 | 塩田       |

この地藏堂が中林氏記載の棟札『文政元年寅十二月二拾三日落成』のそれで、これについて故羽柴弘氏が史談一九号に貴重な研究資料を寄せている。氏の文を要約すると慈濟院の本尊は木造漆箔の阿弥陀仏で、寺伝によれば恵心僧都作で平安中期と思われる。地方の小庵にかかる優作が保存されていることは驚異であります云々と書いてあり、隣接の地藏堂(前述)についても鋭い御意見を述べられている。

(三) 嶺雲山潮谷寺

寺社記によれば京智

恩院末山嶺雲山安養院

潮谷寺開山昌譽夫ヨリ

深譽、天譽、迨三世以

上年号曆数知不申候

『以下略』とあり

寛保元年四月潮谷寺

第十五世傾誉上人が、

時の佐伯藩寺社奉行に

提出した記録文であ

る。

潮谷寺は慶長十八年

以前は古市村にあつた

といわれている。開山

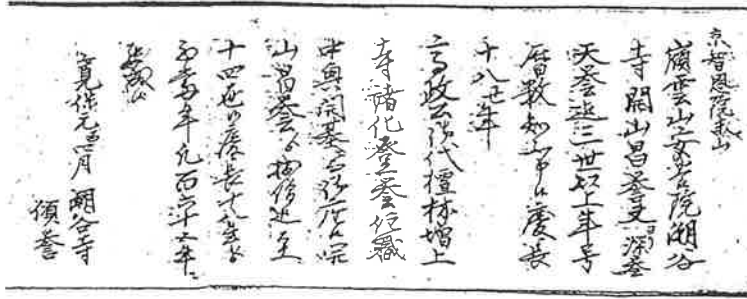
は安養院昌譽で大友義

鎮（宗麟）の旨をうけ

て永禄中（一五五八）

一五六九）佐伯に入り、

錫（錫杖のこと）を止



めて寺塔の建立をはかったが中途で没した。法義深譽は師の遺業を継いでついに寺庵を開いた。『以下略』佐伯市史より

これは前記傾誉上人の記録と一致する。

三世までの僧達は中世後期に生きた人達である。潮谷寺では初代安養院昌譽、深譽、天譽までが永福山に居住し、四世登誉上人が高政公御代に江戸増上寺より佐伯に来て現在地に中興開基した。開山昌譽より拙僧まで十四世であると、……傾誉寛保元年（一七四一）の記録である。

(四) 山林一ヶ所

寺社記では上岡村檜野、立山の内

を潮谷寺浄修堂に寄進した文書である。

(五) 長松山洞明禪寺

正しくは燈明寺と書く。大同年中

（八〇六～八〇九）の開山で享保元

年四月骨堂禪師が藩に提出した記録文である。

堤内のナギの木は県内でも有名な天然記念物である。

古利だけあって末庵の数は藩内で一番多く寺社記でそれ

御領分中寺々作物安置  
 先年存存再興寺々  
 大因寺中洞明寺札  
 先年存存再興寺々  
 大因寺中洞明寺札  
 先年存存再興寺々  
 大因寺中洞明寺札  
 先年存存再興寺々  
 大因寺中洞明寺札

が分かる。現在榎野の半数以上が洞明寺の檀家であるが、慈濟院は妙心寺直末で洞明寺の末庵にはなっていない。意外な気がするが信仰は複雑を常とするからそれでよいのだから。

御領分中寺々作物安置

佐伯領内の有名な仏像を記録した文書である。さまざまな古仏が領内の寺庵に安置されていて参考になるが、仏師があまりにも歴史上名の通った人物で、しかも年代的にも古く、信用するには専門家の調査を待たねばならない。ただ、意外に思うことは榎野の阿弥陀三尊仏が、この記録文に載っていないことである。領内では一級品であるから時の寺社奉行が見落としたとも考えられない。これは依然謎であるが、今後の研究を俟つ外はない。

|                                      |                                    |                                      |                                    |                                    |   |
|--------------------------------------|------------------------------------|--------------------------------------|------------------------------------|------------------------------------|---|
| <p>一 地藏<br/>弘法大師作<br/>大日寺<br/>未庵</p> | <p>一 観音<br/>運慶作<br/>大日寺<br/>持庵</p> | <p>一 地藏<br/>弘法大師作<br/>大日寺<br/>未庵</p> | <p>一 不動<br/>運慶堂<br/>大日寺<br/>未庵</p> | <p>一 観音<br/>定朝作<br/>大日寺<br/>未庵</p> | <p>御領分中寺々<br/>作物之安置<br/>大日如來 大日寺<br/>弘法大師作<br/>運慶堂<br/>大日寺<br/>未庵</p> |
|--------------------------------------|------------------------------------|--------------------------------------|------------------------------------|------------------------------------|---|

|                              |   |  |  |  |                             |                             |                              |
|------------------------------|---|--|--|--|-----------------------------|-----------------------------|------------------------------|
| <p>一 阿彌陀<br/>定朝作<br/>潮谷寺</p> | <p>一 藥師<br/>昆須揚屋天之作<br/>永享二年二月<br/>上旬西野(備前)中<br/>上ノ山天文二年<br/>上月安直</p> | <p>一 釋迦<br/>定朝作再興永享四年<br/>佐伯惟治造立季綱<br/>作</p> | <p>一 藥師<br/>永享二年<br/>三月廿九日<br/>東光能</p> | <p>一 觀音<br/>定朝作再興永享四年<br/>佐伯惟治造立季綱<br/>作</p> | <p>一 藥師<br/>定朝作<br/>瑞祥寺</p> | <p>一 觀音<br/>定朝作<br/>天徳寺</p> | <p>一 阿彌陀<br/>定朝作<br/>潮谷寺</p> |
|------------------------------|---|--|--|--|-----------------------------|-----------------------------|------------------------------|

慈濟院の石造物

境内で目を引く入り口の藤の木はすばらしい古木で、佐伯市史でも藤の名所として取り上げている。右側には古塔類が並び、中の五輪塔は一説に鎌倉時代の作ともいわれている。境内の左側に層塔の軸部があつて原型を留めないが、四面に尊像の半肉彫りの古さを見れば室町期以前の物らしい。十三重の塔とは近距離で関係がありそうに思う。



層塔

村外れの古い墓地には佐伯地方でも巨大な五輪塔が数基、雑草の中に埋もり、この地域の今昔を物語っているかのようだ。

これ等一連の石造物は鎌倉期の造立といわれるが、どういう人物が供養したのか不明であり、佐伯氏十代惟治



石造物群

の時代とは年代的にも大分離れている。樫野にはこのような古仏及び古塔類が散見するが、未だ解明の手はつけられていない。

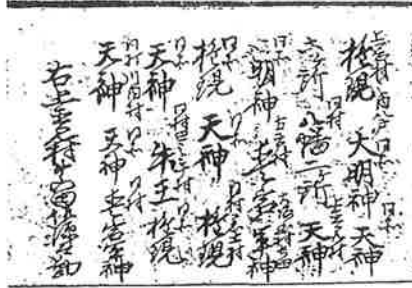
本堂の須弥壇に潮谷寺関係の位牌があるが、その中に十世靈誉上人の安置され、また、境内にある石造物の中に恩誉上人の墓碑石がある。



靈譽・法譽・上人墓碑(潮谷寺境内)

その側面にはまだ読み取れそうな碑文が線刻されている。これ等を総合して感ずることは慈濟院前の安養院の時代は、潮谷寺代々の隠居寺ではなかったかということである。

榎野天満社



中世の榎野

中世から近世と長い歴史を通して土地の人々に信仰され祭られて来た古仏や石造物は、何時頃榎野の里へそして誰が持ち込んだものか、これ等はみな地方の仏師が作ったものではあるまい。剝落した金色に時代の古さを

隣接する天満社は寛文五年（一六六五）の創祀といわれている。佐伯市史より神仏混淆の時代をよく現わして自から頭の下がる社である。社殿の下に番匠川の渡し舟が保存されていて懐かしく昔を偲ばせてくれる。寺社記によれば神職は上直見村山田左源太勤むとある。

感じさせてくれる。

恵心僧都とは何方の者か、大方奈良や京の大寺院に關係する仏僧であつたらう。これ程の阿弥陀三尊仏がそう易々と手に入るものではない。

金銭的にも恵まれ身分の高い地位の人物、つまり権力者の念持物として祭られたものであろう。犬飼町柴北大聖寺の県有形文化財阿弥陀如来坐像は、大友氏 十三代親綱の念持物と聞が、それに勝るとも劣るものではない。鎌倉期の作といわれる五輪塔等も散在し、これ等が謎を解き明かす鍵になりそうである。榎野の里は古来より海陸を通じて中世佐伯莊の重要な位置にあつたものであろう。中林氏の期待に答えたいが今後の研究に俟つ外はない。

